

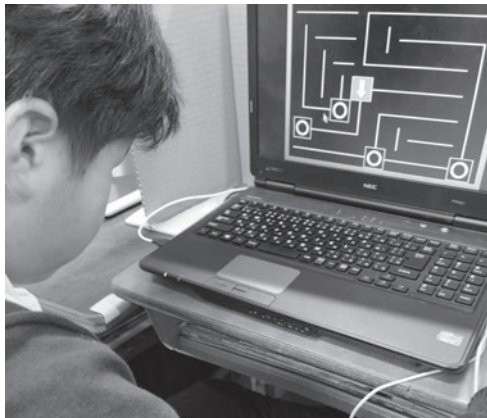
## ■読みに困難のある子どもたちへの実践事例

# 読みが苦手な児童（支援学級・通級指導教室・通常学級）の意欲的な学びにつなげる

大阪府富田林市立大伴小学校  
教諭 磯口 多恵子

### はじめに

今回の報告では、校内では1年生から6年生まで、タブレット端末を1人1台持つことができるようになりました。環境は整ってきつつあります。それを使いこなすための研修やICTに関わる全体研修も何度か行い、何か新しい動きがあるとそれに応じてまた研修するという感じですね。



一方、子どもたちは、入力に関しては、ひらがな入力やローマ字入力、音声入力など自分に合った入力の仕方です。

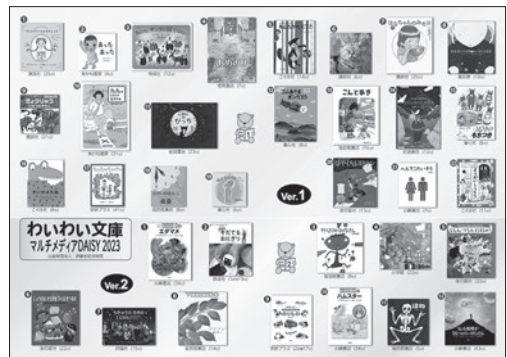
すごいです。子どもたちの情報を学ぶ力は素晴らしいです。

### 取り組み

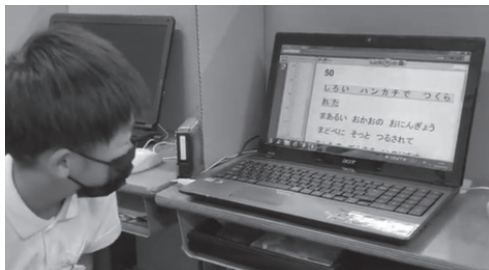
通級指導教室での様子と、富田林市夏季研修について報告させていただきます。

通級指導教室では、通常学級の図書の時間割の時に来てもらっている子どもたちが大半です。図書の時間がとても好きな子どもたちにとっては、「大好きな本を読む時間も大切にしたい」という気持ちと、「通級指導教室の時間も大事にしたい」という気持ちの折り合いをなんとかつけてきています。

どうしても借りてきている本を読みたい時には、その時その時の子どもの様子によりますが、本読みの時間を作っています。本がすらすら読める子もいれば、字を読むのが苦手、文章を読むこともなかなか苦手で、1時間どれを借りようか迷っている子もいます。



でも「わいわい文庫」の書影ポスターでは、見た瞬間に本の内容が大体わかるので、すぐに気になる本を選ぶことができ、とてもうれしいようです。



また、読んでいるところがハイライトされてわかりやすいこと、読んでくれる速度も自分で調節できること、何回も聞き返すことができること、すぐに見つけることができ、あせってイライラする時間がなくなり、とてもいいようです。



たとえば「なぜなぜ」のお話では、とても乗ってきて、「えっ？ わからないなあ」「むずかしすぎ！」とか声に出して言いながら答えを聞いて「わかった、そうだった！」とお話に聞き入って、もう答えがわかっているのに、何度も何度も聞いて楽しんでいます。

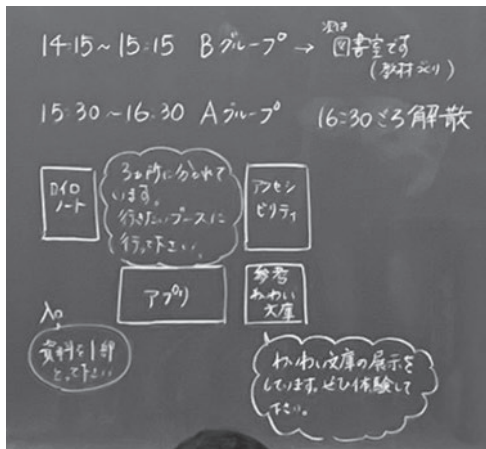
苦手といわずに、自信をもって、安

心して、本読みを楽しむことができるようになり、通常学級での図書の時間や本読みの時間にも積極的に参加できるようになってきています。

## 研修

富田林市の2023年度の夏季研修会では、今年度も、いろいろな研修を行いました。その一つのICTコーナーの一角に、読みに苦手さのある子どもたちの支援として、「マルチメディアDAISY図書」「マルチメディアDAISY教科書」「わいわい文庫」の紹介・活用についてのブースを設けました。

毎年たくさんの本がDAISY化され、本の種類もたくさん増え、身近に楽しめる読書ツール。本読みに意欲的に取り組むことができるようになり、とても効果的であるということを初めて知る先生方がたくさんいるのに驚きを感じました。





マルチメディアDAISY図書が当たり前ようになってきていますが、今年初めて支援学級を担当された方もおり、「わいわい文庫」を知らない方もおられました。まだまだ啓発の必要性を感じた研修になりました。「もうみんな知っている」と思いこんでいましたが、まだまだ当たり前ではないということがわかりました。



## 効果と今後の課題

読みに苦手さのある子どもたちにとって、「わいわい文庫」は、身近に楽しめる読書ツールです。手軽に、自分なりの本にカスタマイズして、色や速さも自由に調節できます。自分だけの本を楽しむことができ、何回も聞き直すことができるので、読書に対しての抵抗感を感じずに済み、本読みに意欲的に取り組むことができるようになるため、とても効果的でした。

毎年新しい子どもたちが入学してきて、新しい教員が担当になります。我々にとって当たり前でも、初めての子どもたち、先生方にとっては、違います。「研修で知ることができて良かった。職場でも広げていきたい。」と感想が多く寄せられていましたが、実際に、「わいわい文庫」を紹介し続けていくことが大切だと思いました。休むことなく、こつこつと、一歩ずつ、人

がかわっても絶えることなく、繰り返し伝えていけるようにしていくことが読みに困難のある子どもたちへのサポートにつながっていくことを信じて、引き続きやっていきたい思います。

～子どもたちの笑顔のために～

